

## 生川小持沢山行報告書

【山 域】 奥武蔵  
【コース】 生川小持沢  
【日 時】 平成28年10月15日（土曜日）  
【天 候】 晴れ  
【参加者】 CL：花島（記録） SL：高梨 SL：柘植 メンバー：佐藤・小原・澤田路・田中・鶴田・加藤・上茂・萱野宏・井本・吉川・庭田・松原

【コースタイム】 一の鳥居 9:10～小持沢入渓 9:25 ～ 小持山 13:05-13:15～シラジクボ 13:40 ～ 一の鳥居 14:35

### 【山行報告】

新人歓迎山行の沢登りリーダーの打診を9/7に受けました。それに対し、日曜日は用事がある、土曜日だけしか参加できない旨を伝え、それでも構わないという回答があり、計画がスタートしました。

まあ、奥武蔵で沢というイメージはなく、あまり人は集まらないだろうから、小人数で沢の登下り降と小一時間の稜線歩きも楽しめたらと欲張った計画となりました。が、募集をしてびっくり、最終的に15名の大所帯となってしまいました。

各車千葉5時を目安に出発してもらう。移動中に連絡を取り合い、15名全員のピックアップ完了を確認したところで、入山連絡を入れる。一度、圏央鶴ヶ島ICを出たコンビニで3台が集合し、目的地である武甲山登山口の一の鳥居を目指す。遅れていた1台も9時前に到着し、全員集合。この頃には、駐車場も満杯状態だ。

タクシーで入山するひと、横瀬駅から歩いて入山する人もいて、山肌を削られたとはいえ、武甲山の人気ぶりがうかがえる。

入渓点が近いので、駐車場で沢支度をし、集合写真を撮って9時10分に出発。

小持沢に掛かる橋から右岸を上流に20mほど行ったところから河原へ降り、入渓する。

入渓点の標高は560m、小持山までの高低差710m。遡行距離は水平2Kmと半日コースだ。



駐車場で記念写真



単調な沢筋を行く

河原歩きからわりと大きな岩がゴロゴロした沢を、幾度か渡渉を繰り返す。水は温いが、この時期あまり濡れたくはない。20分程行くとやっかいな滝が出てくる。こんなはずじゃなかったが、直登班と高巻き班に分かれて取り付く。直登班はロープを出して中間エイトで時短を図る。

その先もいくつか滝が続き、チョックストーンっぽい滝も出てきたり、岩の色彩も豊富で、そのコントラストもあざやかで、結構楽しませてくれる。



大岩の間を登る



もろいリッジから回り込むルートもある

普通この位の沢幅だと両岸が迫ってくるような圧迫感があったり、覆いかぶさってくる枝で陽が遮られて薄暗い感じがするものだが、ここは両岸の斜面が緩く、威圧感がない。

先頭は、小原さんや吉川さん、松原さんが交代で務め、そのあとを高梨さんがいい感じでフォローしてくれている。こっちは最後尾からそんな様子を見ながらルートの確認をするだけで、楽なものだ。



きれいなナメ滝



大岩のあいだの滝



やっかいな滝はシュリングで確保



最後の稜線への斜面を登る

1,000m付近の二股を超え、枯れ滝を登ると既に12時を回っている。時間的に大持沢下降は無理と判断して、一般道を下る事にする。水も消え後はツメるだけなので、アプローチシューズに履き替えて小持山のピークを目指す。右岸の植林帯を経て尾根に取り付き、しばらく急登に喘ぐと稜

線にたどり着く。そこから1～2分で小持山に到着。木々が邪魔で見通しはよくない。



小持山の山頂で全員集合の記念写真

シラジクボまでは、やはり見通しの利かない緩やかな稜線が続く。ここを右折し、うす暗い植林帯をトラバースして尾根筋へ乗る。九十九折りの登山道を林道を横切りながら下り、堰堤に掛かった鉄板を渡ると武甲山からの登山道（舗装路）に出る。やがて見覚えのある入渓点を通り、車を停めた一の鳥居に到着する。



番外編の写真

